3　小教研一次研分科会

下学年Ａ・Ｂ・Ｃグループ、上学年Ａ・Ｂ・Ｃグループに分かれ、１年「はしのうえのおおかみ」（親切 思いやり）、３年「じゃがいもの歌」（個性の伸長）、６年「日本のよさをたいせつに」（伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度）の教材をもとに、発問や振り返りを中心とした指導案を作成し研究協議する。また、道徳科授業の課題を共有。

4　ご指導

指導助言者　福島県教育庁相双教育事務所　指導主事　　高玉　宏太郎　様

ア　価値理解、人間理解、他者理解について

・　価値に意義や大切さについて理解する。価値は分かっていてもできないこともあることを
理解してあげる。いろいろな考えがあり、友達を許容してあげることも大切である。自分らしさとは、短所を長所にすることであり、自分らしさは変化するものである。他人から見ると違って見えるものである。

イ　自分事として捉えるために

・　自我関与とされる発言は導入や展開など様々な場面で見られるので、それを見取って終末につなげていくと授業につながりが出る。問い返しの発問をすることも効果的。

ウ　自己肯定感を育てる

・　よいところも、悪いところもまるごと自分を肯定する。得意、抜きんでていることに目がいきがちだが自分を見つめることができた心のよさに着目させる。褒めるのではなく、認めること。

指導助言者　福島大学人間発達文化学類　特任教授　　宮武　泰　様

ア　登場人物への自我関与が中心の授業構想

・　「あなただったらどうする」ではなく、登場人物がどうするかを話させる。

イ　問題解決的な学習の授業構想

・　教科書は、閉じて教師が読むと読み物に入りやすい。

・　「『手品師』について大劇場に行ったから、不誠実であるのか？今まで頑張ってきたことに対してはどう考えるか？誘ってくれた友人に対しては？」など様々な状況が考えられる中で、「果たして、少年の前だけで手品をすることを誠実といってよいか？」中心発問の検討が鍵になってくる。

5　研究の成果

○　３年次として研究推進校の実践状況の報告を開催し、発問や振り返りを中心とした指導案を作成することにより、会員相互の実践研究につなげることができた。

○　教師の説話やゲストティーチャーの活用により、ねらいとする道徳的価値に迫ることができた。

○　事前研を全体会として行うことで、道徳授業の質的向上を図ることができた。

○　授業の内容を道徳だより等で知らせることにより家庭や地域とのつながりを深めることができた。

○　アンケートの中の項目で「多面的・多角的に考える力」、「親切・思いやり」、「伝統・文化の尊重」、「個性の伸長」で肯定的な回答率が９０％を超えた。交流や発表する機会の確保、認め合う雰囲気の醸成がどの学級でもできている結果だと考えられる。

○　道徳コーナーの設置等、全学年で計画的に行うことで、全教育活動を通じて道徳性を養うことができた。

6　反省と今後の課題

●　自分事として捉えさせるために、自我関与とされる発言が導入や展開など様々な場面で見られるので、終末につなげていく。道徳性は、全ての時間で育てていくものであり、正解したことを褒めるのではなく、考えたこと、やった行為を褒め、認めていく。決意表明ではなく、児童の発言を拾って、問い返しの発問をすることにより深まる。

●　本音で言い合える授業にしていくため、どのような意見でも許容される学級の雰囲気作りが大切であり、周囲が受け止める土壌をつくっていくことが重要である。今後も、全教育活動を通じて、道徳教育の充実と道徳科授業の質的な向上を図っていく必要がある。

●　単元計画の配当で、行事と価値を関連させて行うことで、深く価値にせまることができると考える。

●　アンケート結果から一定数否定的な回答、交流や発表に消極的な児童も見受けられるため、担任が授業コーディネートを工夫していく必要がある。

●　今後も地域の方や担任以外のゲストティーチャーを招く等の多様な授業実践を行い、自己の生き方についての考えを深め、実践意欲につなげていく。